



Agri Note 田園

アグリノート米作り情報

(ハナエチゼン・コシヒカリ)



JA福井県

梅雨を迎え、水稻は重要な管理時期となります。今年は6月以降も平年より気温が高い予報で、いもち病、紋枯病、カメムシ対策が特に重要です。また病害虫防除前に畦畔の草刈りを行うとより効果的です。ハナエチゼンの分肥は穂肥の時期でもあります。穂肥は適期適量を心掛け、高品質・高収量を目指しましょう。作業中の熱中症対策として、こまめな休憩と水分補給も忘れずに行いましょう。



1. 病害の予防

今年の5月中旬は気温が高い、また、5月下旬～6月上旬にかけては日照不足となるなど周期的に気象が変化しています。今後の気象によっては、病害虫の発生が予測されますので圃場を見回り、早めの予防剤散布でいもち病や紋枯病に備えましょう。

【箱施薬の効果】

薬剤や圃場・稲の生育によって残効は異なりますが
目安は60～75日程度！



葉いもち病

【いもち病】

補植用苗は、葉いもちの発生源となります。すみやかに除去しましょう。梅雨期に葉いもちの発病が始まり、穂いもちに進展します。発病前に対策を行いましょう。

予防剤：オリゼート粒

2. 穂肥



紋枯病

【紋枯病】

近年発生圃場が増加傾向にあります。株元から上部に徐々に進展し、病気が進むと株が弱くなり、倒伏しやすくなります。過繁茂の場合や気温28～30℃が紋枯病の好適条件です。

予防剤：リンパー粒



ハナエチゼンの分肥では穂肥の時期になります。幼穂をチェックして散布しましょう。

品種	1回目	幼穂長	2回目
ハナエチゼン	6月下旬	1～2mm	1回目の
コシヒカリ	7月中旬	10mm	10日後

- 一発肥料の圃場でも、葉色が薄い、茎数が少ない場合は検討しましょう。

3. 雑草対策

斑点米の原因となるカメムシの圃場内への侵入を防止するため、圃場内外の雑草処理を行いましょう。

①圃場内除草(除草剤・抜き取り)

圃場内のヒエやホタルイはカメムシを誘引する原因となります。取りこぼし雑草は、除草剤の散布や抜き取りを行いましょう。

※除草剤散布は、使用回数や使用時期(収穫〇〇日前)を必ず確認。

②圃場外雑草(畦畔草刈り)

草刈りで、稲穂がでる前に餌場をなくしましょう。カメムシはスズメノテッポウやメヒシバなどイネ科雑草を好みます。

- 防除や穂肥のお問合せは各支店・センターの営農指導員まで。

● 県下一斉の畦畔草刈りデー

地域ぐるみの草刈りで斑点米カメムシを減らしましょう。

1回目 6月21日(土)・22日(日)

2回目 7月 5日(土)・6日(日)



今回のアグリノート田園は、丹南営農経済センター(米穀施設課) 野瀬が担当しました。